

# ODAを活用して 海外事業展開を目指す 中小企業



山梨 → ベトナム  
農業生産法人 (株)サラダボウル

田中 進代表

## 日本の生産技術と経営手法を生かし 海外へ進出



サラダボウルの生産現場で。社員はいずれも「農」に志を持つ若い面々だ



ハウス内で実るトマト。有機・無農薬・減農薬農産物の提供がモットーの一つ



収穫物を前に笑顔のスタッフ

(株)サラダボウルは、農産物の生産・販売、加工、農業生産コンサルティングなど「農」をキーワードに多角的な業務展開を図る農業生産法人だ。設立は2004年。

設立者で代表の田中進氏は、メガバンクなどに勤務した元金融マン。10年にわたる金融関連業務の中で、農業の持つ大きなビジネスポテンシャルを痛感。流通業者の都合ではなく消費者本位の立場に立った「農業の新しいカタチ」を創りたい、という思いから生まれたのがサラダボウルである。社員は現在、パートナーを含め約40人。いずれも「新しい農業」に志を持つ若い面々だ。

新しい農業の中でも、近年注力する主な事業は、人材育成と生産工程

管理に特化した農業経営。「複合環境制御型大規模グリーンハウス」を山梨県（3ha）と兵庫県（4ha）に建設中で、今年中には生産を開始する予定だ。複合環境制御とは、外気温度、湿度、日射などに応じ、ハウスの暖房機や天窓、カーテンなどをそれぞれ制御していくもので、栽培環境の最適化を目的としている。

近年、日本の農業分野の海外進出が課題の一つに指摘されているが、同社では以前からベトナムに関心を寄せており、2年前から独自に事前調査を実施。野菜栽培などに適したラムドン省ダラット高原に複合環境制御型グリーンハウスを建設し、生産管理や流通システムに加えて、人材育成モデルの構築を狙った事業展開計

画を推進中だ。生産管理やベトナム国内の市場開拓、流通モデルなどについては、JICA中小企業海外展開支援の基礎調査を活用し、検証を進めていく。田中代表は事業展開の柱として、①日本の経営マネジメントモデルの現地導入、②独自の情報力やマーケティングを生かした流通システムの構築、③生産技術と経営手法を組み合わせた人材育成モデルの構築—の3点を強調する。

「ベトナムで事業モデルを確立し、大きな成長が期待されるアジアをはじめ、世界マーケットへ展開するための生産と人材育成の拠点にしたい」と田中代表は熱意を燃やしている。

.....  
【外部人材参加：日本工営(株)】



宮崎 功代表

横浜市 → タイ

(株)バイオメディカル研究所

## 簡易検査技術の普及で デング熱予防を



実験に打ち込むバイオメディカル社の宮崎代表。同社が研究・開発の拠点に据えるのは、中小機構が千葉大学亥鼻キャンパス内に設置しているイノベーションプラザ内の研究室だ



デング熱検査キット  
「RapiDeng®-Ag(ラピデング)」



検体(血清、全血など)および展開液に本製品を挿入、10~20分で出現するラインの本数で陽性・陰性を判定する

昨年、日本でも大きな関心と呼んだデング熱。日本で感染が確認されたのは実に70年ぶりのことだ。一方、世界では熱帯・亜熱帯の地域を中心に、年間1億人の人々が感染していると言われ、東南アジアのタイやフィリピンなどでも毎年のようにデング熱が流行し、多くの死亡事例が報告されている。

そのタイを舞台に、デング熱の流行を防ぐシステム構築を目指しているのが、(株)バイオメディカル研究所(横浜市)である。代表の宮崎功氏は、熱帯感染症ウイルスなどの検査手法にかかわる研究・開発の専門家である。タイについては、保健省やマヒドン大学医学部など独自に張り巡らせた現地ネットワークがあ

ること、また啓蒙活動の一つとして「デングデー」を設けるなど、予防に対するタイ政府の問題意識の高さなどを踏まえ、同国での展開を決めたという。

海外展開の事前準備は、中小企業海外展開支援の「案件化調査」を活用。同社が開発し普及を目指す検査キット(製品名:ラピデング)を使い、デング熱患者の検体を使用した検査を行うとともに、治療方法の実態調査、デング熱の発生動向管理システムにかかわる計画策定、さらに現行の検査方法などに関し、医療従事者への聞き取り調査などを実施した。

ラピデング(Rapideng®-Ag)は、検体(血清、全血)と展開液を滴下した小試験管に挿入し、10~20分で

出現するラインの本数で陽性・陰性が判定できる。デングウイルスの抗原を検出できることから、抗体から検出する検査に比べ、判定までの時間が大幅に短縮されるとともに、感染の初期段階で診断できる点に大きな強みがある。

「デング熱は子どもが感染するケースが多く、働き手の母親がその看病に多大な時間を割かれるなど、経済的なロスも決して小さくない。地球温暖化などの影響で日本での流行、定着化も大いに懸念される。“元を絶つ”思いで、タイでの取り組みに全力を挙げていきたい」と宮崎代表は語っている。

.....  
【外部人材参加: アイ・シー・ネット(株)】